

善隣

No.467 通巻734

2016年（平成28年）5月1日発行（毎月1日発行）

2016

5



© Orsoo Bayarsaikhan Photography

一般社団法人 国際善隣協会



善 隣 目 次 2016年 5 月号

公開講演会記録

モンゴルの外交政策の本質 一モ・日関係の位置づけ ……エルデネツォグト・サラントゴス	2
出版業界・いま……………小林敬和	10
中国空軍建設に協力した日本兵士の物語 ……土屋龍司	18

中国ウォッチング ……編・訳 上松玲子	26
---------------------	----

出かけてみました

今、あのギリシャを150キロウオーキング……………雨宮 武	28
-------------------------------	----

調べてみました

満洲とアラビア：縦書きのアラビア文字 ……牛木久雄	30
---------------------------	----

陶々俳壇 ……馬場由紀子選／戸部 守	31
--------------------	----

協会通信・会員だより・同好会だより・編集後記 ……	32
---------------------------	----

2016年 5月の行事予定……………	33
--------------------	----

善 隣 第467号 通巻734号

2016 (平成28) 年 5 月 1 日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋 1-5-5

一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03 (3573) 3051

FAX 03 (3573) 1783

発行人 矢野一彌

印刷所 (旬)ゆにおんプレス

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

表 紙

モンゴル国ザワハン県ウラギチノーンハ
ルヌール

表紙 2

上：モンゴル国中央県ボルヌール郡の月

下：モンゴル国ザワハン県エレデネハイ
ラハン郡の洞門

モンゴルの外交政策の本質

—モ・日関係の位置づけ

駐日モンゴル国大使館公使参事官 エルデネツォグト・サラントゴス

初めに、本日、国際善隣協会の会員の皆様にモンゴルと日本の関係についてお話しする機会を与えてくださった矢野会長に感謝を申し上げます。

モンゴルと日本はつい最近までお互いに「遠い国」であったが、この距離は過去20数年間で驚くほどのスピードで縮まり、現在、両国は北東アジアにおける「戦略的なパートナー」になるまで関係を精力的に発展させてきた。昨年、菅官房長官はモンゴルを「価値観を共有するかけがえのないパートナー」であると評価してくださった。これはどの二国間関係をみてもなかなか見られない成果だといえるであろう。そもそなぜこうした関係を短期間で培うことが可能であったのか、不思議に思われる方が多いかもしれ

れない。モンゴル外交のフィロソフィーとそれにおける日本の位置づけについて本日詳しく紹介したい。

1 モンゴルの外交政策

モンゴルは冷戦時代にソ連一辺倒の政策を余儀なくされてきた。20世紀の国際情勢のなかで、モンゴルが独立を守り抜いていくにはあまり多くの選択はなかったと思うし、当時の環境の中で最善の道だったであろう。最も肝心なのはベルリンの壁が崩れ、冷戦が終焉するときにモンゴルは国の運命を決める舵取りを自らの手に持ったことである。社会主義時代には国の発展にかかわる重要な問題は、モスクワに聞く必要があった。だが民主化が

訪れたときにその必要はなくなった。同時に、誰にも援助や助言を期待できない厳しい環境がモンゴルを待ち受けていた。このような大変革の時期が国の歴史に訪れる経験は、さほど多くはないであろう。この大切な時期を私たちの世代はまのあたりにしてきたのである。

90年初頭は本当に不思議で「マジック」な時期であった。国民一人ひとりが夢と期待に包まれ、目に見えなくても意識の中に常に存在してきた共産主義に対する恐怖と不信感が消えていった。モンゴル人は一滴の血も流さずに民主革命を起こし、その結果、新憲法の採択と政治改革を行い、自由経済のシステムを導入した。政治と経済改革と足並みをそろえる形で当時の外務省の中樞をなしていた外交



官らが「モンゴルの外交政策指針」を作成し、やがて1994年にモンゴル国会がこの文書を「モンゴル安全保障指針」と「軍事ドクトリン」とともに採択した。外交政策のガイドラインの趣旨はモンゴル国が開かれた、非同盟的かつ多元的な外交政策を追求することであった。2011年に改正された外交政策指針にはこの精神が引き継がれ、21世紀の国際関係秩序においてモンゴル国は引き続き「平和を希求し、開かれた、独立した、多元的な外交政策を行うこと」を再確認したのである。

「平和を希求する政策」は難問をすべて対話と平和手段で解決する。そしてモンゴル国の安全保障と国益を、国際法の枠組みで、政治・外交的手法で確立することを意味している。モンゴル国に外的な軍事危機がもたらされていない場合、いかなる軍事同盟にも加盟せず、領土と領空をいづれかの国に敵対して利用させることなく、外国の軍勢力を領土に侵入・駐留・通過させない方針を堅持することの意味する。核および他の大量破壊兵器の不拡散、非武装化、国際テロリズム・組織犯罪との闘い、国連および他の国際平和支援・維持・復興活動への参加も「平和を希求する外交政策」に尽きるの

である。

「開かれた外交政策」は政治・経済システム、文化、宗教の違いを問わず世界各国と親善関係を促進することを意味する。互恵的かつ平等で、国益や国際社会に害のない形で外交をすすめること、さらに他国の全権、領土保全を尊重することも宣言している。現に、モンゴルは現在181か国と外交関係を維持しており、どの国とも友好関係を保っていることは開かれた外交政策の成果であるといえよう。独立した外交政策とは、モンゴルが外交政策決定は国益に沿って独立で行うことを意味する。

多元的な外交の本質は特定の国に頼るのではなく、多数国とバランスを重視した関係を発展させ、両隣国とともに「第三隣国」との関係も一緒に促進する政策である。諸外国のみならず国連をはじめ諸国際機関との連携を深めることも多元的政策の一環である。

外交政策指針には、国家発展には経済的な要素が欠かせないために、経済外交の積極化も唱えられている。さらに、モンゴル国は世界共同体の構成員として、地域および世界的に直面する課題の解決に向けた全面的行為に寄与することを努力すると明記されている。具体的には、

- 民主主義の強化、人権と自由の確立に向けた活動の支持、積極的参加
- 核および他の大量破壊兵器の不拡散、非武装化、国際テロリズム・組織犯罪との闘い、国連および他の国際平和支援・維持・復興活動への参加
- 気候変動への適応、負の影響の削減、自然環境劣化防止、感染症蔓延予防に向けた国際社会の努力の支持と参加が重視されるのである。

モンゴルの外交政策の主要な方針には：

- * ロシア連邦・中華人民共和国と友好関係にあることは、モンゴル国の対外関係政策の最優先目標であり、これらの国と全面的に均衡をとって関係し、幅広い枠組みでの善隣協力を発展させる。この際、この2つの国と関係してきた歴史的伝統、経済協力の独特な特徴を考慮する

- * 米国・日本・ヨーロッパ連合・インド・韓国・トルコなどの東西の国・連合とは「第三の隣国」政策の枠組みでパートナーシップ関係と協力を拡大発展させる

- * その他のアジアの国と二国間友好関係と協力を発展させ、アジア太平洋地域と多国間協力への参加、東アジア・北

東アジア・中央アジアにおける戦略的安定の強化と安全保障協力の拡大に向けた政策・活動を支持し参加する

* 国連とその専門機関および国際金融・貿易・経済機関との協力を積極的に継続し、世界統治における国連の義務と責任を拡大させることを支持し活動する

* 発展途上諸国との二国間関係と協力を発展させると同時に、国連・77か国グループ・非同盟運動などの多国間の枠組みで協力する
といったことが盛り込まれている。

2 モンゴルと日本の関係について

■歴史的な背景

モンゴルは日本国と友好関係については、歴史上のいくつもの重要なターニングポイントに表明していた事実がある。モンゴルの皇帝フビライは、元王朝を建国した最初の年に日本の亀山天皇に使者を派遣し、国書を送った。フビライハーンの書簡の写しが、現在、奈良の東大寺にある。また20世紀の初頭にモンゴル国が民族の自由と独立を回復し、その歴史的成果を諸国に承認せしめる政策の枠組みで、日本の天皇に、モンゴルの宗教と

国政の両方を支配したボグドハーンから国書が送られた。この文書には1912年11月18日と記されているが、日本に届くことはなかったという。

1972年に外交関係が樹立されたが、冷戦時代において両国の関係が限定的なものであった。文化交流取決めが1974年に、カシミア工場建設に関する経済協力協定が1977年に締結された。

■モンゴルの民主化時代のモ・日関係

1990年代初期にはモンゴルに民主革命が興り、やがて我が国は民主化、市場経済システムを導入したのである。多党制が導入され、1992年に新憲法が発布された。さらに、モンゴルは多元的かつ開かれた外交政策を施行することを宣言した。政治、社会、経済システムの移行期において、様々な困難に直面した当時のモンゴルの指導者は日本政府に対して支援を要請したのである。これに対し、日本は一国でモンゴルを支援するのとどまらず、G7先進国に呼びかけ、モンゴル国支援会合を開催するなど、率先してモンゴルへの支援を行い、モンゴルへのトップドナー国となった。

1991年日本の海部総理大臣がモンゴル国を歴史的に訪問され、モンゴルの

民主化を支援する日本の政策を正式に発表。その後の歴代日本政府は一貫してモンゴルへの支援政策を実施してきたのである。日本の援助の内容は多岐にわたっており、ODAのみならずNGOや個人もモンゴルへの支援運動に加わったのである。日本の国民と政府から評価しきれないほどの大きな手助けを賜ったモンゴル国民は今もその感謝の意を決して忘れていない。この時期における日本の支援とそれに基づいた両国関係は今日におけるモンゴルと日本の関係の強い基盤となり、両国民の心の絆を強め、日本に対するモンゴル側の信頼と期待の高まりをもたらした。モンゴルは、昨年中所得国の仲間入りを果たしたことにより今後日本のODAは円借款と技術協力を中心に継続されていくのである。

日本の大相撲におけるモンゴル力士の活躍や文化交流の促進も親善関係に寄与した。また両国の親善団体の活動も活発化し、人的交流が拡大してきたのである。

■今日の関係

●政治・安全保障対話

双方は両国関係の新時代の幕をあける「戦略的パートナーシップ」の構築を合

意したのは2010年のエルベグドルジ大統領の来日の時であった。ちなみに、両国は1990年代の中頃から総合的パートナーシップの原則にのっとって関係を発展させてきたのである。

政治レベルでは日本との間に非常に緊密な信頼関係が構築されている。指導者レベル、国会レベルで頻繁に要人往来が行われ、外務省や各省庁間の協力が着実に進んでいる。特にエルベグドルジ大統領と安倍総理大臣の間に信頼関係が構築され、相互の私邸で会談を行うなど合計8回にわたり会談を重ねてきた。安倍総理はモンゴルを2回訪問された初の日本国総理大臣となり、活力ある経済を実現するための「エルチ」や「エルチプラス」イニシアティブを提案するなどモンゴルとの関係に特別な注意を払い、我が国の発展を支援する上で大きな指導力を発揮している。

両国会における議員連盟の交流や活動も積極的で、最近では共同書道展を開催するなど関係を盛り上げている。

関係省庁間では外務省間だけでなく、安全保障当局間協力や「3+3」PM協議、「モ日米」協議も行われている。防衛分野における協力ではウランバートルで毎年行われるPKOの多国間訓練に日

本の自衛隊が参加したり、モンゴルの人材育成にご貢献されたりしている。

● 経済関係

経済分野においては、今後ウイン・ウイン関係を構築していく目標がある。モンゴル国は天然資源が豊富であり、日本には高度な技術がある。この2つの可能性を相互に有効に利用することにより、両国の民間に依拠したモンゴルと日本の戦略的なパートナーシップの重要な柱ができる。

モンゴルはこの数年間で著しいスピードで発展してきたが、成長を支えたのが鉱山開発である。鉱山開発では世界最大級の埋蔵量を誇る銅のオユトルゴイ鉱山、石炭のタバントルゴイ鉱山が有名だが、他に手つかずの鉱床もあり(図1)、鉱物資源を梃子にした高成長

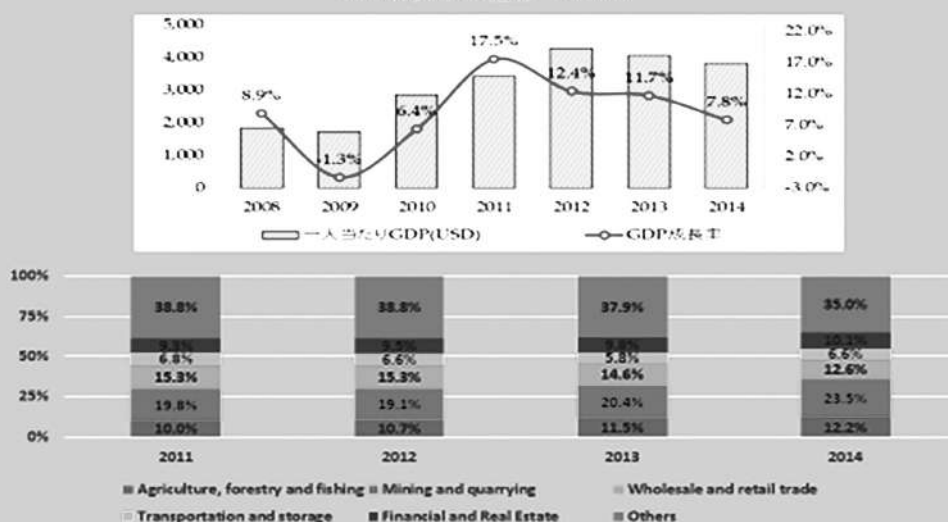
図1 出所：モンゴル鉱業省、2014年

可能性：投資する理由		
鉱物資源の1950鉱床と8150鉱微が国家資源登記されており、そのうち約300鉱床だけが開発されている		
鉱物資源(単位)	埋蔵量(2013)	世界的地位
 金(千トン)	2.5	10位以内
 亜鉛(百万トン)	1.7	
 鉄(十億トン)	1.2	
 石油(十億バレル)	2.4	
 銅(百万トン)	117	10位以内
 石炭(十億トン)	175.5	10位以内
 オイルシェール(十億トン)	788	
 蛍石(百万トン)	3.8	10位以内
モンゴルの東部・中央部は比較的詳細に調査されている。ハンガイ(中西部高原地帯)・西部はさらなる調査で大規模鉱床が発見される可能性がある。		

図2

マクロ経済

GDP成長率の推移（2014）

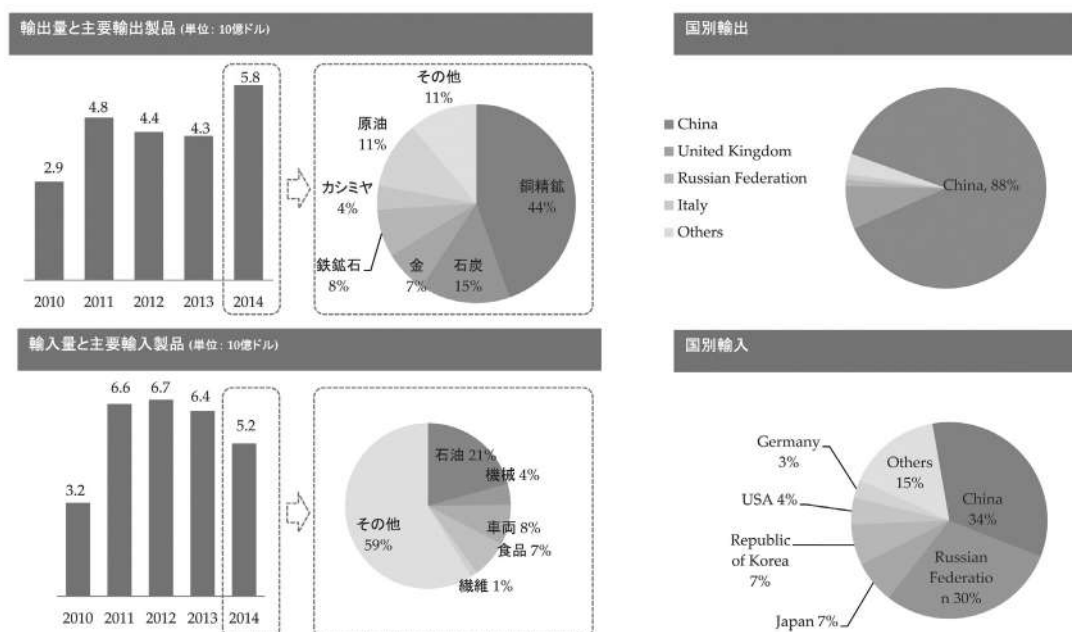


が期待されてきた（図2）。
鉱業以外に競争力のある産業が少なく、

鉱物資源・収入は輸出
の約8割、
歳入の約2
割を占めて
おり、鉱物
価格の変動
に左右され
るボラティ
リティーの
高い経済構
造である
（図3）。

現在、鉱物資源の国際価格の低下やそれに伴うモンゴルへの外資の減少などにより一時的に経済成長率が低下している。しかし、長期的な経済発展の展望は明るい。鉄道、道路、飛行場とい

図3 モンゴルの対外貿易



貿易相手先は139か国・地域、国別シェアでは中国が62.1、ロシアが14.6、その他が23.2%を占める。

出典：モンゴル統計局

日本は3.6%で英国3.9%に次ぎ第4位貿易相手国となり、輸出では第6位、輸入では第3位の相手国となった。

ったインフラが整備中。鉄道インフラ完成後、石炭の総輸出は2018年ごろまでには4000～5000万トンに増加するポテンシャルがある。日本政府は一貫してモンゴルの持続可能な経済発展への協力を実施してきた。主要なインフラや社会福祉の基盤整備、また最近では産業人材の育成や医療機関の充実に向けても協力支援が行われている。ODAに加え、新しい協力の枠組みもできつつある。具体的には、「国間オフセット・クレジット制度の導入や輸出クレジットラインの設定などが取り上げられよう。しかし、現在のところモンゴルと日本間の貿易と投資額は決して高くない（表1）。貿易ではモンゴルの輸出をいかに増やせるかが特に大きな課題である。日本からモンゴルへの民間投資額は僅か2億ドルである。2013年には両国の首脳間で合意された「戦略的パートナーシップ」の目的は、日本・モンゴル中期行動計画（2013～17年）には経済協力関係に関する当面の課題が記された。日本国政府は我が国の持続可能な経済発展への協力を表明してくださった。さらに、日本国政府はモンゴルの貿易、投資やビジネス環境の整備、とりわけモンゴルの輸出促進と産業多角化を支援することを約束している。さらに、農牧業と鉱業の輸出産品の付加価値を高めることに協力するといっている。今後はこうした協力が次第に拡大していくことと確信している。モンゴルの企業家は日本の企業との協力で作った質の良い製品を両国の消費者に届けたいと願っている。両国政府は2015年の2月に経済連携協定（EPA）を締結したことが今後の経済関係拡大に大きな影響を与えるであろう。EPAは間もなく発効する見込みである。これにより多くの貿易産品の関税が撤廃され、投資環境が改善される。具体的には、往復貿易額の約96%を協定発効後10年間で関税撤廃することが合意された。日本からモンゴルへの無税輸出の割合が、現状の総輸出の1%未満から発効後即時に約50%、10年間で96%まで拡大する。モンゴルから日本への市場アクセスに関しては、鉱工業品は即時関税

表1 2014年のモンゴルの貿易相手国（上位20か国）

国名	貿易総額		輸出額		輸入額		貿易収支
	金額	シェア	輸出	シェア	輸入	シェア	
総額（千ドル）	11,011,205.3	100.0%	5,774,569.3	100.0%	5,236,636.0	100.0%	537,933.3
1. 中国	6,841,448.3	62.1%	5,073,327.3	87.9%	1,768,121.0	33.8%	3,305,206.3
2. ロシア	1,610,933.1	14.6%	61,653.2	1.1%	1,549,279.9	29.6%	▲ 1,487,626.7
3. 英国	425,169.4	3.9%	398,740.2	6.9%	26,429.2	0.5%	372,311.0
4. 日本	392,240.7	3.6%	24,451.2	0.4%	367,789.5	7.0%	▲ 343,338.3
5. 韓国	366,262.4	3.3%	13,718.9	0.2%	352,543.5	6.7%	▲ 338,824.6
6. 米国	244,840.3	2.2%	15,363.1	0.3%	229,477.2	4.4%	▲ 214,114.1
7. ドイツ	174,001.9	1.6%	15,020.6	0.3%	158,981.3	3.0%	▲ 143,960.7
8. イタリア	96,754.1	0.9%	51,412.5	0.9%	45,341.6	0.9%	6,070.9
9. ウクライナ	70,109.3	0.6%	57.7	0.0%	70,051.6	1.3%	▲ 69,993.9
10. シンガポール	66,959.8	0.6%	14,159.3	0.2%	52,800.5	1.0%	▲ 38,641.2
11. マレーシア	64,255.5	0.6%	1,216.8	0.0%	63,038.7	1.2%	▲ 61,821.9
12. フランス	62,863.7	0.6%	9,304.7	0.2%	53,559.0	1.0%	▲ 44,254.3
13. ポーランド	51,706.0	0.5%	124.2	0.0%	51,581.8	1.0%	▲ 51,457.6
14. タイ	45,160.1	0.4%	301.2	0.0%	44,858.9	0.9%	▲ 44,557.7
15. トルコ	38,027.9	0.3%	169.7	0.0%	37,858.2	0.7%	▲ 37,688.5
16. スイス	37,187.9	0.3%	28,052.0	0.5%	9,135.9	0.2%	18,916.1
17. カザフスタン	34,287.9	0.3%	4,855.7	0.1%	29,432.2	0.6%	▲ 24,576.5
18. デンマーク	32,973.8	0.3%	23,972.1	0.4%	9,001.7	0.2%	14,970.4
19. ベトナム	28,148.5	0.3%	3,622.3	0.1%	24,526.2	0.5%	▲ 20,903.9
20. カナダ	27,601.6	0.3%	1,172.4	0.0%	26,429.2	0.5%	▲ 25,256.8

出所：モンゴル国家統計局統計月報2014年12月号

トナーシップのための日本・モンゴル中期行動計画（2013～17年）には経済協力関係に関する当面の課題が記された。日本国政府は我が国の持続可能な経済発展への協力を表明してくださった。さらに、日本国政府はモンゴルの貿易、投資やビジネス環境の整備、とりわけモンゴルの輸出促進と産業多角化を支援することを約束している。さらに、農牧業と鉱業の輸出産品の付加価値を高めることに協力するといっている。今後はこうした協力が次第に拡大していくことと確信している。モンゴルの企業家は日本の企業との協力で作った質の良い製品を両国の消費者に届けたいと願っている。両国政府は2015年の2月に経済連携協定（EPA）を締結したことが今後の経済関係拡大に大きな影響を与えるであろう。EPAは間もなく発効する見込みである。これにより多くの貿易産品の関税が撤廃され、投資環境が改善される。具体的には、往復貿易額の約96%を協定発効後10年間で関税撤廃することが合意された。日本からモンゴルへの無税輸出の割合が、現状の総輸出の1%未満から発効後即時に約50%、10年間で96%まで拡大する。モンゴルから日本への市場アクセスに関しては、鉱工業品は即時関税

撤廃または10年以内に段階的に関税撤廃され、農林水産品では一部の牛肉調製品は関税割当されるのである。

●グローバル及び地域レベルでの協力関係

モンゴル・日本関係は、北東アジアにおける最もよい二国間関係の一つである。モンゴル国は日本の世界平和と発展繁栄のための寄与を常に高く評価し、国連安保理常任理事国となる希望を一貫して支持してきた。今後もこの立場は変わらない。

両国が基本的な価値観を共有している。民主主義の強化、人権と自由の確立に向けた国際的な取り組みのなかで協力をさらに拡大するポテンシャルがある。モンゴルは2014年COPD（民主主義共同体）の議長国を務めた。昨年は国連人権理事会のメンバーに選ばれた。

「北東アジア安全保障に関するウランバートル対話」イニシアティブ

2013年にモンゴル国エルベグドルジ大統領が提唱したこのイニシアティブは北東アジア諸国に対し地域の多面的な問題をウランバートルに集まって協議することを提案している。トラック1・5

やトラック2の対話呼びかけ、すでに「北東アジアエネルギー会議」、「女性政治家会議」、「青年会議」、「北東アジア市長会議」を開催している。日朝の公式及び非公式会合もウランバートルで開催するように提案をしている。モンゴルは北朝鮮とは1948年に外交関係を樹立。以来、友好関係を保ってきた。社会主義時代においてアジアにおける社会主義国同士として交流を続けてきた伝統がある。

●モンゴルの永世中立国提言

昨年9月にモンゴルの大統領が「モンゴルの永世中立」と題する提言を公表した。大統領は「モンゴルは1990年代初期からすでに中立国政策を実施してきた。我が国は平和を希求し、開かれた民主国家である。多元的な外交政策を実施している我が国はどの外国とも利害が矛盾する難問がなく、国土に関する争いもない。いかなる国際問題に関しても我が国は独自に判断をし、外国に従うことはないし、大国の争いには加わることはない」と説明している。今後、国連や諸外国、国際機関の支持を取り付けるとともに国内に関連法案を制定し、提言の実現を図っていく。

●モンゴルは今年アジア・ヨーロッパサミット（ASEM）を主催

ASEM 20周年の記念すべき節目の年に我が国はASEM会合を主催。国を挙げて準備を進めている。日本の参加を心待ちにしている。

●文化・スポーツ交流

未来に向けたこの大事な交流は盛んに行われている。日本国政府のJENESYS 2・0事業の枠内でモンゴルから500名の青少年が日本を訪問している。

2015年には過去最高の1万8千人のモンゴル人が日本を訪れており、その多くは若者である。これは日本に対する関心と期待が一層高まっていることの表れであると言える。さらに、年々、日本におけるモンゴル人留学生数が増加中。留学生の皆様が毎年東京や大阪で春や秋まつりを開催するようになり、モンゴルの文化とスポーツ、歴史などを紹介している。東京で5月のゴールデンウィークに開催される春祭りに、毎年数万人が訪れている。日本政府の円借款事業「工学系高等教育支援事業」で、この数年に日本におよそ1千人の学生が留学する。日本で教育を得た学生たちが帰国後、国の発展に大きく寄与するであろう。

両国のスポーツ交流を率先してきたのは日本相撲界におけるモンゴル力士たちの活躍である。モンゴル人は相撲交流を通じて日本をより近く感じるようになったのではないかと思う。相撲は両国市民の相互理解と友好を深めるために重要な役割を果たしている。日本の皆様はモンゴル出身の力士たちを応援してください、またいく人もの力士を横綱や大関にまで育ててくださった。多くのモンゴル人が感謝している。

日本の柔道の選手たちもモンゴルでよく知られ、尊敬されている。今後は2020年東京オリンピックにむけて両国のスポーツ交流が盛り上がっていく。

市民交流の拡大には両国の非政府団体、親善協会の果たしてきた役割が大きい。1970年代に設立された日本モンゴル協会、日本モンゴル親善協会をはじめとするおよそ70の親善団体が日本で活動している。

両国の市民交流は地方レベルでも活発化している。昨年1月にモンゴルの全20県の知事らが日本を訪問し、日本の地方自治制度から学び、交流をして帰った。静岡県、新潟県、大分県、北海道、福岡県、愛知県、和歌山県、熊本県、沖縄県など多くの都道府県がモンゴルとの交流

に熱心に取り組んでおり、モンゴル大使館もなるべく東京から出かけてモンゴルの紹介を展開している。

これらのあらゆる分野での交流が、国民間の深い信頼と親近感を醸成し、両国の強いパートナーシップの基盤となっている。

3 結び

モンゴルは人権が尊重され、自由で民主的な選挙によって政権が選ばれる自由主義国家であり、民主主義導入以来、平和裏に政権交代が行われてきた。モンゴル国の基本的な外交政策はいかなる政治勢力が政権を担ったとしても、揺らいだり、変わったたりするものではない。モンゴル国はあらゆる問題についても対話による解決を目指す平和国家であり、戦略的パートナーである日本との関係は今後も継続的に拡大発展させていく方針である。今日、歴史上最も良好な関係にあるモンゴルと日本が、今後EPAの発効や様々な対話の深化により政治や経済分野での交流を深めることによって、より強いパートナーとなっていくことを期待している。そのことはモンゴルの国益のみならず、北東アジアの平和と繁栄を目指す

す日本の国益にも資することを疑わない。
(2016年2月29日・公開フォーラム)

講師略歴(エルデネツォグト・サラントゴス)

1992年モンゴル第14高校卒業、97年モンゴル国民大学国際関係学部学士取得。2002年早稲田大学アジア太平洋研究科国際関係学修士取得。10年アデレード大学国際経済学修士取得。1997～2000年外務省アジア局日本担当官
2002～2004年外務省政策局北東アジア地域担当三等書記官
2004～2007年駐日モンゴル国大使館三等書記官
2007～2009年外務省アジア局二等書記官兼日本担当官
2010～2012年外務省政策企画局北東アジア地域担当一等書記官
2012～2014年6月駐日モンゴル国大使館経済参事官
2014年以降駐日モンゴル国大使館次席兼公使参事官

出版業界・いま

中央公論新社取締役会長 小林敬和



今日は、出版業界の現状と課題について、お話ししたいと思います。

まず、出版業界とは何か、ということですが、この業界を形成している中核は、書籍や雑誌をつくる「出版社（版元）」、流通を担う「取次」、そしてお客さんに販売する「書店」の三者ということになります。より広くいえば、印刷会社や製本会社、編集プロダクション、デザイン事務所、さらに海外版權を扱うエージェントや製紙メーカー、インキ会社なども含まれるといってもいいでしょう。

元々、新聞の世界にいた者にとって、出版社に向向して驚いたのは、関連業界の多いことです。出版社だけでは、書籍も雑誌もつukれないし、売ることでもでき

ない。印刷、販売も自己完結に近い新聞とは大きな違いを感じました。

版元・取次・書店

はじめに出版社について説明しましょう。出版社は現在、3500〜3600社あると見られます。大手といわれる講談社、集英社、小学館から数人でやっている会社もかなりあり、まさに大小さまざまです。

ただ、大手といっても社員数は1000人未満で、中堅と目される当社（中央公論新社）で140人ほどです。売上額にしても、最大手でさえ1200億円前後で、名前の知られた出版社でも、トヨタのような巨大企業と比べれば、企業規

模としては、きわめて小さいわけです。

次に、取次です。取次は、いわば本の問屋さんで、流通を担います。一般社団法人「日本出版取次協会」の加盟社は25社です。小さな専門書の取次などを入れると、40〜50社ほどでしょうか。取次の世界は実質的に日本出版販売（日販）とトーハンが勢力を二分し、二極化が進んでいます。両社で全体の80%を超えるシェアを占めています。

他の取次の経営は厳しく、シェア第3位の大坂屋は楽天や大手出版社の支援を受けました。また、中堅の栗田出版販売も2015年、民事再生法の適用を申請し、経営破綻。大坂屋が再生支援を表明し、合併に向けて進んでいます。やはり中堅の大洋社も自主廃業の方針を明らかに

にしました。

最後に書店ですが、書店も経営は苦しく、その数は減り続けています。04年には全国で約2万店あったのが、現在、1万3000店台まで減っていると見られます。このところ、1年間に数百店減少しているのではないのでしょうか。

書店の売上は、長く紀伊國屋書店がトップでしたが、いまや、そのうえにネット書店のアマゾンがいる状態です。アマゾンは読者にとって便利な存在ではありませんが、その進出が街の本屋さんを圧迫していることは事実でしょう。

全国展開している大型書店の出店・拡張はあるものの、小さな本屋さんが、どんどん店じまいしているのが現実で、書店主の子どもさんが後を継がずに閉店してしまうという話もよく聞きます。

出版業界の厳しい現実

では、出版業界が厳しいといわれる現状は、どのようなものなのか。総販売金額の推移を見てみましょう。

出版科学研究所の「出版指標年報2014年版」(以下、年報14年版と略記)によると、1996年の総販売額は、2兆6563億円(書籍1兆931億円、

雑誌1兆5632億円)で、ここがピークです。その後、2004年を除いて減り続け、09年には2兆円を切って、1兆9355億円(書籍8491億円、雑誌1兆863億円)になってしまいました。

書籍と雑誌で見ると、書籍は02年、04年、06年は前年より多少、増えているものの、流れとしては減少していますし、一方の雑誌は1998年以降、一度も増加に転じることなく、減り続けています。

それでは、14年と15年の販売額の状態は、どうでしょうか。

同研究所の「出版月報」2016年1月号によると、14年の総販売額は、1兆6064億円(書籍7544億円、雑誌8520億円)で、ピークの1996年と比べると、なんと1兆499億円も減っています。つまり、この18年間で市場規模は6割強程度に縮小してしまったわけです。

さらに、15年は1兆6000億円を割り込んで、1兆5220億円(書籍7419億円、雑誌7801億円)に落ちてしまいました。前年比を見ると、書籍が1・7ポイントのマイナスに止まったのに対して、雑誌は8・4ポイントの大き

なマイナスで、やはり雑誌の不調が顕著になっています。

次に、書籍の新刊点数を見てみましょう。「年報14年版」によると、販売額がピークだった1996年の新刊点数は、6万3054点でした。それが2002年に7万2055点と7万点を突破し、13年には7万7910点になり、14年は少し減ったものの、7万6465点でした。14年の場合、販売額はピークの1996年と比べて3387億円ほど減っているのに、新刊点数は1万3400余点、増えています。そこからは、売れ行きが芳しくない分を、なんとか点数でカバーしようとしている状況が浮かび上がってきます。

日本の場合、書籍、雑誌は委託販売制なので、出版社はいったん取次に納品すれば、とりあえず、その分の売上がたちます。ただし、書店で売れなければ、取次を通して返品されるので、当然ながら、返品分のお金は返すことになりません。売れない本をつくり過ぎれば、結局、自分の首を絞めることになるわけです。

先に指摘したように、書籍より雑誌の方が厳しい状況に置かれています。書籍は1996年からの18年間で3387億

円の減少だったのに対し、雑誌は7112億円も減っています。

雑誌の販売額がこれだけ減っているのに、14年の雑誌の発行点数は3179点（月刊3091点、週刊88点）と、1996年の3257点と比べて、さほど減っていません。つまり、ひとつひとつの雑誌の部数が減ってきているといえるでしょう。

月刊誌に比べて、週刊誌の方が厳しい傾向にあります。昨今は月刊誌も厳しさを増しているようです。たとえば、月刊総合雑誌のいわば王様である「文藝春秋」も、「芥川賞」の発表号など、話題性がある号を除くと、以前と比べ、部数的に苦戦を強いられているのではないのでしょうか。

街の小さな本屋さんの場合、これまで雑誌で稼いできたところが多かったのですが、雑誌の売れ行き不振は、かなり経営に響いているようです。出版業界でも、雑誌を盛り上げる工夫、試みはしているのですが、まだ有効な手立ては見つかっていないというのが現実です。

なぜ、1996年をピークに書籍や雑誌の売れ行きの長期低落が始まってしまったのか――。この問いについては、いくつかの分析があります。ひとつは翌

97年に消費税率が3%から5%に引き上げられたことが考えられます。また、96年にヤフー・ジャパンのサービスがスタート、ここから本格的なインターネット時代が始まり、プリント・メディア離れが進行したのではないかと、いった意見もあります。たしかに、様々な情報がネットによって無料で入手できるようになって、とくに情報系の雑誌が苦しくなっているという見方には、納得させられます。

ベストセラー今昔

ここまで、出版業界の厳しい現状について説明してきましたが、あまり景気の悪い話ばかりしていても仕方ないので、売れた本、ベストセラーの話題に移りたいと思います。

唐突ですが、戦後最大のベストセラーは何か、おわかりですか。「年報14年版」によると、答は、1981年に講談社から刊行された『窓ぎわのトットちゃん』です。ご承知のように、タレントの黒柳徹子さんの少女時代の自伝で、単行本だけで累計580万部を超えています。文庫を合わせると、800万部に達するのではないのでしょうか。

2位はJ・K・ローリングさんの『ハリー・ポッターと賢者の石』（静山社）で、このシリーズは他の作品も上位に入っています。以下、3位・松下幸之助さんの『道をひらく』（PHP研究所）、4位・乙武洋匡さんの『五体不満足』（講談社）、5位・養老孟司さんの『バカの壁』（新潮社）、7位・春山茂雄さんの『脳内革命』（サンマーク出版）と続きます。いずれも、刊行当時、大きな話題となった本がベスト10に顔をそろえています。

ところで、どうして『窓際のトットちゃん』はあれほどのベストセラーになったのか。もちろん、作品の力と黒柳さんの知名度はありますが、様々な形でテレビやラジオで取り上げられた効果も大きかったと思います。いわば、マス・メディアをうまく使ったPRが効を奏したともいえるでしょう。不思議なもので、いったん火がつくと、ベストセラーはどんどん伸びていくもののようです。本屋さんの店頭で、ワゴンに本を山積みにして売りまくった、最初のケースともいわれています。

昨今のベストセラーも、メディアの影響力はきわめて大きいものです。もちろん、新聞や雑誌の書評など、紙媒体で紹介

介されることも効果はありますが、テレビや映画といった映像媒体の威力は大きい。文芸書の場合、作品が映画化されたり、テレビドラマ化されたりすると、ぐっと売上が伸びるわけです。テレビドラマですと、単発の2時間ドラマよりは連続ドラマの方が効果はあります。

たとえば、映画化で書籍の売上が伸びたケースは「ハリー・ポッター」シリーズなど、多々ありますが、昨今では百田尚樹さんの『永遠の0』は、岡田准一さんの主演で映画も当たり、原作の講談社文庫は370万部を超えたといわれています。また、テレビで「半沢直樹」が大ヒットしたこともあって、池井戸潤さんによる原作『オレたちバブル入行組』（文春文庫）と『オレたち花のバブル組』（同）が計260万部を超え、続編の単行本『ロスジェネの逆襲』（ダイヤモンド社）もミリオンセラーになっています。手前味噌ながら、当社が2011年に刊行した角田光代さんの文庫『八日目の蟬』は、映画のヒットもあって、130万部を超える、ミリオンセラーとなりました。

ドラマ化、映像化以外では、「芥川賞」「直木賞」「本屋大賞」といった賞に選ら

れることも、ヒットの条件のひとつです。2015年のベストセラー、話題作といったら、やはりお笑い芸人・又吉直樹さんの単行本『火花』（文藝春秋）でしょう。3月の刊行前から「人気芸人による文芸作品」ということで話題を呼んでいましたが、「芥川賞」の受賞で勢いがつき、あつという間に100万部を突破し、すでに240万部に達しています。今後、文庫化されれば、さらに部数は伸びるはずです。

15年は、他にも、翻訳本の『フランス人は10着しか服をもたない』（大和書房）は65万部を超えましたし、小林弘幸さんの『聞くだけで自律神経が整うCDブック』（アスコム）などの健康本も好調でした。また、ノートルダム清心学園の理事長である渡辺和子さんの『置かれた場所で咲きなさい』（幻冬舎）は、12年の刊行ですが、版を重ね、累計200万部となりました。美術家・篠田桃紅さんの『二〇三歳になってわかったこと』（同）や元NHKアナウンサーで評論家・エッセイスト・下重暁子さんの『家族という病』（同）など、成熟した女性の「人生本」も多くの読者を獲得しました。

ただ、このように大きく売れるベストセラーがある一方で、読者の文庫、新書

など廉価本志向が強まっているなか、人文・社会科学の単行本など、売れにくい書籍が多数あり、全体としては長期低迷、低落しているのが昨今の状況です。そうしたなかで、14年末に刊行されたフランスの経済学者トマ・ピケティさんによる『21世紀の資本』（みすず書房）のヒットは、出版界にとって心強いものでした。728ページで5500円。税込

みだと、6000円近い大著が発売2か月ほどで10万部を突破し、14万部に達しました。経済系の週刊誌を中心に雑誌やテレビでも取り上げられ、関連本の刊行も続きました。

この論考をめぐっては、様々な議論が展開され、経済論壇を活性化させましたし、一時はブームともいえる社会現象にまでなりました。「きちんと読破した人は、どれほどいたのか」とさめた見方をする声もありましたが、値段の高い硬派の本でも、時代の要請に応えた内容ならば、多くの読者が手に取ってくれることを証明した意義は大きいと思います。

電子書籍の登場と展開

次に、出版界の大きな動きのひとつとして、電子書籍を取り上げます。

電子書籍とは、専用端末（ブックリーダー）やスマートフォン、タブレット、パソコンなど、電子機器のディスプレイ（画面）で読むことのできる出版物です。紙の書籍や雑誌に比べて「いつでも買える」「かさばらない」「暗くても読める」「紙の出版物より安い」といったことがメリットとされています。

簡単に歴史をたどると、1986年に小学館や新潮社など22社によって電子出版協会が設立され、翌87年には岩波書店から「広辞苑」のCD-ROMが発売されました。これは、電子辞書のはしりとして、大きな話題を呼びました。

2000年には、出版社8社が「電子文庫パブリ」を開設。パソコンや携帯で文庫本が読めるようになりました。この後、04年には電子書籍端末として、松下電器が「シグマ・ブック」、ソニーが「リブリエ」を発売しましたが、価格の問題やコンテンツの不足、使い勝手の悪さなどから売れ行きが伸びず、撤退を余儀なくされました。

本格的な「電子書籍元年」とされているのは、2010年です。この年に、大手、中堅出版社を中心に21社が「日本電子書籍出版協会」を設立したのをはじめ、専用端末に加え、電子書籍も読める

スマートフォンやiPadが発売されました。さらに、12年には、アマゾンが電子書籍ストアのKindleのサービスを開始。楽天のコボやグーグルなども参入し、電子書籍を読むための道具立てとコンテンツが、かなり充実してきたわけです。

電子書籍の売上は徐々に増えてきています。インプレスビジネスメディアによると、12年度に768億円（書籍729億円、雑誌39億円）だった売上は14年度に2倍近い1411億円（書籍1266億円、雑誌145億円）に増加。その後も増え続け、15年度は1890億円（書籍1600億円、雑誌290億円）、16年度に2350億円（書籍1980億円、雑誌370億円）と2000億円を突破し、19年度には3400億円（書籍2890億円、雑誌510億円）に達すると予測されています。

しかし、以前の予測よりは、売上の伸び率が鈍化している状態で、伸び率はもっと鈍るという見方も出ています。専用の端末にしても、すでに撤退したメーカーもあり、現在は、iPadのようなタブレットやスマートフォンで読む人が増えているようです。

電子書籍の話が続けます。電子書店のなかには、早くも閉店しているものもあり、現在は100社ほどです。電子書籍の総アイテム数（電子雑誌も含む）は、72万点前後と見られています。15年度には100万点に達するという予測もありましたが、そこまでは伸びていないようです。この72万点のなかには、自費出版や公文書なども含まれているので、いわゆる商業出版の書籍、雑誌は23万点位ではないか、といわれています。

これまでの売れ筋コンテンツは、コミックやライトノベルで、これらが全体の80%強を占めています。次第に小説や教養系の作品も増えてはきているところです。今後、小説や教養系の作品が、どの程度、伸びていくかが、電子書籍全体の伸長に影響してくると思います。

出版社のなかでは、講談社やKADOKAWAなどが電子化に積極的ですが、中小の出版社は費用や手間の問題もあって、大手ほど積極的ではないようです。ちなみに、当社の電子書籍は約2900タイトルで、このうち、新書が500点ほどあります。

電子書籍が登場した当初は、「紙の本が売れなくなるのではないか」と書店は

警戒していましたが、今のところ、紙の本の売上にあまり影響はないようです。現在は、店頭で電子書籍の販売コーナーを設けている書店もありますし、紙の雑誌を買えば、電子雑誌が付録として付いてくる実験的な試みも行われました。

電子書籍は再販商品ではないので、値引き販売が可能です。紙の本に比べてPRが難しいこともあって、フェアやキャンペーンの仕方に工夫が必要です。また、紙に比べて、やはり「読みにくい」との声もあります。今後、電子書籍の売上は伸びてはいくでしょうが、アメリカではすでに伸びが鈍化しているようで、日本での展開も予測するのは難しいところ。先ほど述べたように、小説や教養系の作品の増加など、コンテンツの充実がひとつの鍵であると思います。

山積する課題

ここまで、縮小する市場や減り続ける書店、電子書籍の登場と展開など、出版業界の現状と問題点について話をしましたが、さらに、様々な課題を取り上げたいと思います。

まず、万引きの問題です。少し古い数字ですが、07年度の被害額は193億円

と推定されています。万引きの対象は、コミックが全体の3分の2ほどで、以下、写真集や高額本、新書や文庫と続きます。万引きの目的は「読みたくて」が半数近くで、「換金」が3分の1、「スリル」も少しあります。かつては「読みたくて」が多かったそうですが、最近は換金目的が増えていると。ことで、高齢者が生活費を稼ぐため、とか、外国人による荒っぽい大量万引きもあるという話です。

防止策として、防犯カメラや防犯ゲート、監視員の巡回、警報が鳴るICタグの装着などがありますが、いずれも費用や手間がかかるため、大手書店にしかできない対策です。万引き被害は深刻で、小さな本屋さんのなかには、万引きで閉店に追い込まれた店もあるそうです。

次に、図書館との関係です。日本図書館協会の統計によると、14年の公共図書館数は3246館で、1994年の2207館、2004年の2825館と比べ、この20年で1039館、10年で421館、増えました。また、年間の個人貸し出し総数は、14年は6億9527万冊。1994年の3億6525万冊、04年の6億968万冊と比べて、この20年

で3億3002万冊、10年で8559万冊増えています。この数字を見ても、いかに図書館が利用されているかがわかります。

さらに、各図書館は、閉館時間の繰り下げやベストセラーを多く揃えることなどで、サービスの充実をはかっています。なかには、佐賀県の武雄市図書館のように、DVDのレンタルショップや新刊書店、スターバックスコーヒーまで入っているとあります。こうした図書館のサービスの充実が市民にとって好ましいことですが、問題もあります。そのひとつが、ベストセラーの複本問題です。ひとつのベストセラーを何冊、場合によっては何十冊も揃えることによって、市民のニーズに応えているわけですが、それによって、その本の売れ行きが落ちてしまう、つまりは著者や書店、出版社の利益が損なわれているのではないか、という指摘があるのです。なかには図書館の「無料貸し本屋化」という人さえいます。公共図書館の資料購入費は年々、減少していく傾向があるだけに、同じベストセラー本を何冊も揃えるより、一般の人が手を出しにくい高額本や専門書を充実させた方がよい、といった声もあります。

出版社にとって、図書館は大切な顧客であり、ともに活字文化、出版文化を担っていく存在です。対立するのではなく、十分に話し合いながら、活字・出版文化をより発展させていくために、複本問題などにも取り組んでいくことが必要だと考えます。

次に、いわゆる読書離れの問題です。15年10月の読売新聞の世論調査によると、1か月間に「1冊も本を読まなかった人」の割合は47%。95年の調査以来、つねに50%前後の数字だったので、半数の人は1か月間に1冊も本を読んでいないことになりました。ただ、「若者の活字離れ」といわれていますが、読まなかった人の割合が最も低かったのが20代で42%。逆に高かったのが30代と70歳以上で、それぞれ52%でした。

読まなかった理由については、「時間がなかった」49%、「読まなくても困らないから」33%、「読みたい本がなかったから」28%。20代〜50代は「時間がない」が最も多く、70歳以上では「健康上の理由」が高い数字でした。出版社の間としては、「読みたい本がない」という回答はとてもショックであり、「読みたい本」をつくる努力が求められて

いることを痛感します。

一方で、小中高校で読書の時間を設ける取り組みについては「望ましい」と思う人が86%もあり、出版業界としても「朝の読書運動」のような地道な活動を応援していく必要があるでしょう。

消費税と軽減税率も大きな問題です。

17年4月の消費税率10%への引き上げをにらんで、日本書籍出版協会、日本雑誌協会、日本出版取次協会、日本書店商業組合連合会の4団体を中心に、出版物の軽減税率適用を求めて、声明を出したり、政府や与党に対して陳情したり、活動が続けてきました。結果として、15年12月16日の与党税制改正大綱では、書籍・雑誌はとりあえず「引き続き検討する」と記されました。その際、「有害図書排除の仕組み」づくりといった注文も付けられており、今後、こうした課題の検討とともに、さらなる政府、与党等への働きかけが必要となっています。

1997年、そして14年と、消費税率が上がった時には書籍・雑誌の売上が落ちていただけに、次回も影響が心配されています。世界の多くの国で出版物への軽減税率が適用されていますが、会社の規模や扱っている書籍、雑誌の種類の違

いなどもあって、業界が必ずしもまともっているわけではありません。軽減税率の適用に向けて、どういう形で業界がまともっていくのか、この点も大きな課題といえます。

おわりに

これまで、出版業界の現状、課題について述べてきました。売上総額はどこまで落ち込むのか、書店の数はどこまで減ってしまうのか。正直に言って先が見えません。また、若者だけでなく、高齢者も含めて、日本人全体の読書時間は減っているようです。たしかに、ゲームやチャットなど、ネットの出現によって、私たちの余暇の使い方に変化が生じ、読書時間が減ったという側面があることは間違いありません。このような現実を前に、ともすれば悲観的な気分にとらわれがちですが、私は、出版業界、出版文化の将来に希望はもっています。

「若者の活字離れ」といわれて久しいですが、ネット上のやり取りや情報の取得、ゲームなどでは、若い世代も「文字」は読んでいるわけです。人々のネットに費やす時間が増えているのですから、ゲームやチャットだけでなく、電子

書籍にも、より目を向けてもらえないか。一時の期待感や熱気は薄れているとはいえ、電子ならではの特性や使い勝手に磨きをかけ、売上を伸ばしていくことはできると思います。

いずれにしろ、作品力や話題性があれば、『火花』のようなベストセラーが生まれる可能性はあるのです。まずは出版社が魅力ある作品を世に送り出すことが必要だと、心を引き締めています。加えて、先ほど話題にした学校での「読書運動」といった、読書人口のすそ野を広げる活動との連携や、書店や取次と組んだキャンペーンやフェアによって、本屋さんに足を運んでもらう努力、工夫をするといったことも大切だと思います。

一方で、書店の減少や取次の不振に象徴されるように、委託販売制など、従来の流通・販売の仕組みが制度疲労を起こしている面もあります。たとえば、紀伊國屋書店は取次を通さないで出版社と直接取引する試みも始めています。KADOKAWAは「ニコニコ動画」のダウンロードと経営統合する一方で、流通に関してはアマゾンジャパンと直接の取引をしています。今後、さらに業界の再編や様々な制度改革が進む可能性はありますし、

進めなくては生き残れないかもしれません。

出版は、私たちの文化を支えている大きな柱の一つです。出版業界の一員として、時代の流れをしっかりとらえ、魅力ある作品を生み出すとともに、自己改革を進めながら、微力ではありますが、文化の支え、そして発展に寄与していきたいと思っています。

※原稿中の数字や業界の状況等は、原則として講演時のものです。

(2015年12月10日・公開フォーラム)

講師略歴（こばやし ひろかず）

1954年東京都生まれ。

1976年東京大学文学部卒、読売新聞社入社、1983年から編集局文化部勤務、論壇・宗教等を担当。2002年中央公論新社雑誌・書籍編集局次長、07年読売新聞社編集局文化部長、09年中央公論新社書籍局長、11年同社代表取締役社長、14年現職。

「大同学院二世の会」閉会のお知らせ

「大同学院二世の会通信」第10号（最終号2016年1月30日発行）が発行されました。ご存知のように大同学院は新京に設立された満洲国の官吏研修機関ですが、この会はここで学んだ方たちの二世を中心に1995年に発足しました。会の目的は、会員相互の親睦友好の促進を図るとともに、満洲開拓に献身的な努力を重ねた同学同窓の子弟による満洲研究会が始まりで、「二世の会」という小さな会に集うことによって、知らなかった満洲のさまざまな歴史と実態が理解できたことは私たちにとって大きな収穫であったと会長の金澤毅氏が記していますが、本年3月31日20年の歴史を閉じました。最終号には、昨年5月に発行された『満洲難民』の著者、井上卓弥氏（毎日新聞編集委員）の講演要旨が掲載されていますが、敗戦後満洲・北朝鮮の難民に何が起ったのかをこの会の資料によって、再現したことが語られています。

当協会と関係の深い団体が次々と解散していることは、寂しいばかりですが、時の流れで仕方のないところでしょう。歴史が風化しないように心がけたいものです。

（福島靖男）

中国空軍建設に 協力した日本兵士の物語

作家 土屋龍司



秘史を知ったいきさつ

「中国空軍を創ったのは日本兵だった。」
この史実を私が知ったのは、4年前のことでした。

私は昭和50年に防衛庁に入庁し、文官として防衛庁中央の防衛局や人事教育局などで長い間防衛力整備や人事政策等の仕事をしてきました。したがって戦史の本もたくさん読みましたし、航空自衛隊の方とも長く仕事をし、外国の空軍の話もしてきました。さらには国際企画課長として諸外国軍隊との防衛交流の仕事もしました。その中には中国軍隊との交流の仕事もあり、在京の中国大使館武官との様々な調整、北京の中国国防部を訪問

しての直接の調整などもありました。中国参謀本部から初めて高官として熊光階（ユウ・コウカイ）人民解放軍副参謀総長が日本に来られた時には、新潟空港まで迎えに行き、成田から帰国されるまでの数日間、担当課長としてずっと同行しました。

しかし、「中国の空軍を創ったのは日本兵だった。」などという話を聞いたことはありませんでした。ですからこの話を最初に知った時には飛び上るほど驚きました。

4年前になぜこの秘史を知ったか？それは私が、満州を舞台に興味の小説を書くこととしていた時のことでした。なぜ満州を舞台に小説を書くこととしたかというと、私が退職後しばしば長春に行ったこ

とがあったからです。

長春という町は、日露戦争後日本が満鉄の権益を得、その付属地に作った街から建設が始まりました。さらに満州事変後、広大な土地に大都市が建設されました。そして敗戦後70年たった今でも日本が建設した当時の街並みや建物が残っているのです。関東軍司令部は今、吉林省共産党委員会によってそのまま使われています。

最初に考えた小説の題名は「帝都を満州に移せ」というもので、本土決戦勝利の見込みのなかった大本営の中に、天皇陛下に満州に移っていただき、ソ連と手を組んでアメリカと戦おうという考えがあった、ということをしんとしたものでした。ソ連と手を組んでアメリカと戦



現在の吉林省共産党委員会建物（旧関東軍司令部）

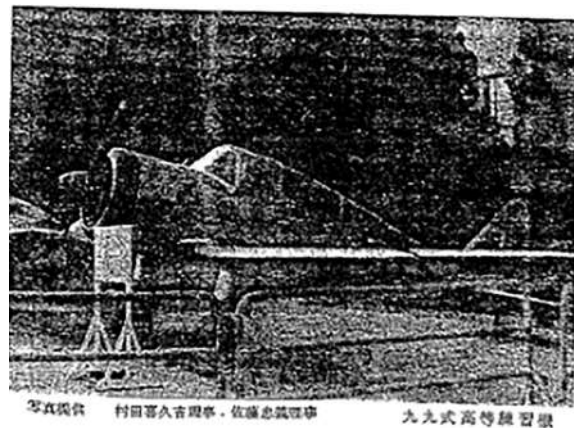
おうとしたところに、日本の国際情勢に対する無知さが表れていますが、終戦の仲介をソ連に頼もうとしたことは本当にあったことですし、満州移転のことを証言している方もいらっしゃいます。

この小説は、主人公が関東軍司令部に赴任し、最後には満州で人民解放軍に参加するというストーリーでした。そして留用された日本軍人のことをネットで調べていたら、中国空軍の建設に協力した林部隊のことが飛び込んできたのです。

本当に驚きました。なにせ陸軍戦闘機「隼」の1個飛行隊、3百人もの日本人兵がそのまま八路軍の捕虜となり、林彪から直接要請されて空軍建設に協力するのですから。そして彼らの仕事の困難さ。しかし彼らの教え子は朝鮮戦争で撃墜王となり、後には中国空軍司令官や副司令官になったものもいた。こんな壮大な話はない。そして彼らを育てた林部隊の者はほとんどが中共に協力したとして、帰国後就職も困難で、生活に苦労したというのです。この話は事実ですし、心を打ちます。

実は私は林部隊が飛行教育に使っていた九九式高等練習機を、北京の軍事博物館で見たことがあったのです。その時はこの史実を知りませんでしたからその意味に気付かず、満州に日本軍が置いていった飛行機を展示してあるのかな、程度にしか思わなかったのですが、実はその飛行機は彼らにとっても思い出深い空軍創世期の記念の飛行機だったのです。私はこの満州秘史を小説にすることにしました。

この史実の日本語の資料はあまりありません。色々なところにコンタクトを取り、数点の資料を手に入れましたけれども、ほとんどは中国語のインターネットです。防衛庁退職後中国語



北京、軍事博物館に展示されている九九式高等練習機

の勉強をしていたのが役に立ちました。東北航空学校で実際に飛行教官をされていた、大隅国一氏が公表しているブログも大変に参考になりました。

出版されるまでの経緯

この隼の飛行隊の隊長は林弥一郎陸軍少佐という方ですが、林氏はその後関西日中平和友好会の会長をされます。現在の会長さんは見本さんという方ですが、小説を書きあげてからその方にプリントアウトしてお送りしました。そしてどこ

かの出版社に持ち込まなくてはと思っていた矢先、見本氏から電話があり、林部隊が中国空軍創設に協力した話を高名な小説家にしたところ、大変に興味深く関心を持って聞いていたというのです。

私は焦りました。この物語は林氏の戦歴を調べ、中国語の文献をたくさん読まなければ書けないから、私以外には書けないとは思いましたが、もしその高名な作家に書かれたら、私の書いたものが吹き飛んでしまう可能性があるからです。そこでとにかく自分で印刷して自家本として発行することにしました。そしてその本を見本氏に送ったところ、関西日中平和友好会で増刷することとなりました。するとその1冊が今日ここにおいでになっている、砂原恵氏の手に渡ったのです。



砂原恵氏（八路軍兵士時）

方のお話は聞いていませんでした。それはもう敗戦後70年近く経っているのですから、御存命の方はあまりいらっしやらないと思ひ込んでいたからです。ところが見本氏から連絡があり、砂原恵氏は実際に東北航空学校に勤務していたというのです。

本は書き終わった後でしたが、早速横浜の砂原恵氏をお訪ねしました。すると、氏は今83歳、少年の頃中国人として八路軍に参加し、国共内戦、朝鮮戦争にも従軍したが、日本人であることが分かり、東北航空学校に転動したとのことでした。氏の父上は阜新の炭鉱で技術者として勤めていましたが、敗戦の1か月前に病気で亡くなられ、砂原一家はソ連軍侵攻直後阜新を脱出、港に向かいました。しかし錦州手前で進めなくなって付近の村に留まり、砂原少年は豚飼いをなどをしていたそうです。地主の搾取にあっている時に八路軍が進出してきて、氏は土地改革で一番貧しい雇農として土地を分配されたそうです。そこで氏は共産党の政治目標に感動し、日本人であることを隠して八路軍に参加したのでした。これ自身、やはり戦争の中の稀有なドラマですが、それはさておき氏にお会いし、私が知らなかった東北航空学校の色々な話をお聞

きました。

その後砂原氏は、自家本を横浜国立大学名誉教授の村田忠禧（ただよし）先生に紹介してくださいました。村田先生は、日中関係の難しい今こそこの本を少しでも多くの方に読んでもらうべきだ、とのお考えから、さらに花伝社の平田勝社長に紹介してくださいました。そしてとうとう拍子に出版が決まったわけです。

林部隊とは

それではいよいよ本題の話に入ります。林弥一郎陸軍少佐は敗戦時、瀋陽の南約30キロのところにある奉集堡（ホウシュウホ）飛行場の第4練成飛行隊（以下「林部隊」という。）という部隊の隊長でした。林部隊は陸軍戦闘機「隼」約20機からなり、飛行教育の最終段階の実戦機



林弥一郎陸軍少佐
（東北航空学校時）



日本陸軍「隼」戦闘機

による教育を行っていました。
ソ連軍侵攻後、林部隊は空からソ連軍を攻撃しました。

当時ソ連軍は東、北、西の三方面から満州に侵攻しました。もっとも強力だった部隊は満州にモンゴルから突き出たところから発進したマリノフスキー元帥率いるザバイカル方面軍でした。

この方面軍は新京（長春）、奉天（瀋陽）などの首都、大都市を目指しました。林部隊はこのザバイカル方面軍を空から攻撃したのです。

この時の関東軍は、太平洋方面での戦闘と本土決戦に備えるため、抽出に次ぐ

抽出でその戦力は「無敵関東軍」などと呼べるものではなく、ほとんど張子の虎でした。そこで関東軍が考えた作戦は、前線を朝鮮国境に近い通化まで下げ、そこまでソ連軍を引き付けて、

兵站線が伸びきったところを叩くというものでした。この計画に従い、関東軍及び政府関係者とその家族はいち早く新京を特別列車で引揚げました。このとき在留邦人が置き去りにされたのです。そして置き去りにされた日本人の多くが命を落とし、生き残った者も塗炭の苦しみを味わったのです。

林部隊奉集堡脱出

ソ連軍が瀋陽に進駐すると瀋陽の部隊は続々とシベリアに送られましたが、奉集堡飛行場は瀋陽から離れていたためにソ連軍の進駐が遅れ、林部隊はすることもなく捕虜となる日を待っていました。

そんな時に林の先輩が来て、南の方約200キロの岫岩（シュウガン）というところに日本人の開拓村があり、その村が収穫されることなく放置されている。これを刈り取れば日本人の食料になり、多くの飢えた日本人を救えるという話をしました。林は部隊の者と相談しこの岫岩にトラック十数台で向かいました。そのとき林は隊員に次のことを徹底しました。

- ・農地をあらしてはいけない。
- ・食料には必ずお金を払う。

・婦人を辱めてはいけない。
この精神は中国共産軍の三大規律八項注意と同じものです。もちろん林はそのことを知りませんでした。

林部隊は岫岩に向かいますが、途中トラクを川や谷で失い、とうとう徒歩だけで南に向かいました。しかし、ソ連軍、八路军（中国共産軍）、国民党軍に囲まれ、ついに上湯（ジョウトウ）というところに来たところで、進むことも引くこともできなくなってしまうのです。

中国共産党空軍創設の夢

ここで話を中国共産党の空軍創設の努力についてお話ししたいと思います。中国共産軍は第2次大戦が終わるまでは、小銃、機関銃、迫撃砲くらいの装備しかないゲリラ戦を戦える程度の軍隊でした。ですから第1次国共内戦、抗日戦、日本敗戦後の第2次国共内戦のとき、国民党軍の空からの攻撃、日本軍の空からの攻撃には、ほとんど為すすべがありませんでした。そこで共産党指導部は空軍を創るための様々な努力をしました。その最初の努力が新疆飛行隊の設立でした。

新疆に盛世才という軍閥がいました。この人は日本の明治大学を出て、国民党

軍に入り、日本の陸軍大学を出て新疆の指揮官となっていたのですが、ソ連が力を持つようになると、国民党軍を離れソ連の勢力下に入りました。そしてソ連の援助で航空隊を持ったのです。1938年、中国共産党はこれに目をつけ、この盛世才の航空隊に航空要員を送り込み、教育を受けさせていたのです。

しかしこの新疆飛行隊は成功しませんでした。それは独ソ戦が始まるとソ連は盛世才の航空隊から手を引き、盛世才は蒋介石の隷下に戻ってしまったのです。そして共産党最精鋭の新疆飛行隊の人員、約百名は牢に入れられてしまいました。この新疆飛行隊のメンバーの何人かは獄死しましたが、林たちの東北航空学校設立の後に釈放され、東北航空学校に合流します。

この新疆飛行隊に常乾坤と王弼という人がいました。この2人はソ連の航空学院を卒業し、新疆飛行隊で教官をしていたのですが、中共は独自の航空学校を持



上：常乾坤
下：王弼

つ必要があるということをも毛沢東に直訴するのです。その結果、延安に「理工学校」という学校が作られ、ソ連から教官が派遣されて航空要員の教育が始められます。これが空軍建設の夢実現の、第2の流れです。しかしこの理工学校も独ソ戦の開始によりソ連が要員を引き上げてしまい頓挫してしまいます。

満州に進め！

日本が降伏した後の中国共産党の戦略は「北に向けて発展し、南は守りとする。」というものでした。そして空軍建設に向けて共産党首脳は常乾坤、王弼に、「東北部（満州）は日本軍が空軍を発展させた重要などころでもあり、航空機材や航空技術者が多数存在している。これはわが党にとって空軍を設立する絶好の機会ではないか。……君たちの任務は日本軍の航空部隊要員と機材を接収し、航空学校を設立することにある。」と指示したのです。すなわち、共産党首脳たちは日本軍の航空要員の確保を最初から意図していたということです。この指示に基づき、常乾坤、王弼らは満州を目指しました。同時に約十万人の共産軍兵士も陸統として満州を目指したのです。

林部隊投降

日本軍航空要員を確保せよ、との命令は共産軍幹部に行きわたりました。そういう時に林部隊が上湯（ジョウトウ）というところで立ち往生していたのです。発見したのは二一旅団、司令員は曾克林、政治委員は唐凱でした。彼らは林部隊が飛行部隊であることをつかみ、旧満州鳳凰城県の副県長三橋勝彦と林部隊を平穩に確保するための相談をしました。三橋が①日本軍人は名誉をとてても大事にすること、②共産軍は共匪であり、ならず者集団と思っていることを説明すると、曾克林らは①林たちの名誉を尊重するために、銃類を渡してもらえば刀や銃剣は持ったままで良いこと、②銃類の引き渡しは武装解除ではなく自発的な引き渡しとして行うこと、③引き渡し後は友人として扱い、④食料は優遇すること、⑤共産軍はならずものの共匪、という誤解を解くようつとめること、⑥空軍建設への協力要請は瀋陽の司令部が行うこと、などを基本方針として交渉に当たることとしました。この方針については、当然のことながら瀋陽の司令部と調整されていたに違いありません。

1945年10月2日、共産軍と林部隊の最初の接触が行われました。林弥一郎は、林部隊が戦うと鳳凰城に避難している数万人の日本人の害となるという三橋の話を受け入れ、共産軍側の交渉員と話し合いました。そして次の日指定されたところに武器を引き渡すために行くと、そこには机が置かれていてだけで、武装した兵はいなかったのです。そして案内に従い宿泊場所の村に行くと、村人たちが笑顔で友人として出迎えたのでした。その上、食料には粉が提供されていたのです。言うまでもなく米は貴重品で、粉は翌年の種粉を集めてきたものだったのです。林たちは驚きました。

牛5頭、羊50頭

数日後、林以下10人ほどが旅団司令部での食事に招待されました。そこにはたくさんの料理と酒が用意されていたのです。林はその席で、何もしないでいるのは申し訳ない、自分たちは技術もあるので道路工事でも何でもいから何か仕事を手伝わせてもらいたいと申し出たのです。政治委員の唐凱が聞きました。

「技術があるとのことですが、あなた方はいったいどんな部隊なのですか？」

林は胸を張って答えました。
「私たちは飛行隊です。飛行員もいれば少しぐらい壊れた飛行機もなおせます」と。

このとき飛行隊と聞いて曾克林と唐凱の目の色が変わったと言われます。でも私は、彼らはすべて知っていたと思うのです。林が何か手伝いをさせてくれと申し出、自分たちは飛行隊だと名乗り、すべてが彼らの思うとおりに運んだから彼らの目の色が変わったと思います。

翌日、彼らが上湯の村に帰る時に曾克林と唐凱が来て、少しばかりの肉を用意したから持って帰ってくれと申し出ました。林弥一郎は手でぶら下げて帰るぐらゐの肉をくれるものと思いい礼を言います。しかし用意されていた肉は、牛5頭、羊50頭だったのです。驚いた林は固辞しますが、唐凱らはぜひ持って帰ってくれと言います。言うまでもなく肉は大変貴重なものでした。妥協として林たちは牛2頭、羊5頭を持って帰りました。この辺にも共産軍の気持ちの入れ方が表れています。

林彪の要請

その数日後、林は瀋陽に行くように言



右上…林彪
右下…彭真
左上…伍修權

われました。瀋陽では林彪（東北民主連軍司令員）、彭真（東北民主連軍政治委員）、伍修權（東北民主連軍参謀長）の3人が林に会いました。林彪は文化大革命の時に毛沢東の後継者と指名されましたが、クーデターを企てて失敗し、ソ連に逃げる途中で飛行機が墜落して死亡したといわれています。彭真は文化大革命で失脚しますが、後に復活し全国人民代表大会常務委員会委員長となりました。伍修權は彭真と共に失脚しますが、復活後人民解放軍副参謀総長となりました。

林はこの3人から航空学校建設への協力を要請されるのです。林は部隊の仲間と相談してから決めるところとわつつつ、協力する場合の条件を3つ出します。

①飛行機の操縦は命に係わることなので、捕虜ではあるが日本人教官の命令に従ってもらうこと。
②日本人の食生活を考えてもらいたいことと。

③学校建設は長期間にわたるので、家族の帯同を認めてもらいたいこと。

林彪ら3人はこの林の要請をその場で受け入れます。林は部隊の仲間のところに帰り、このことを相談すると、ほとんどの者が賛成し、林部隊は共産軍空軍建設に協力することになったのでした。

厳寒の遺棄機材集め



林たちの仕事は遺棄機材集めとその組み立てから始まりました。農民からの情報をもとに、当時満州に約200か所もあった日本陸軍の飛行場か

ら、遺棄機材を集めたのです。これは写真で見てもらったほうが分かりやすいので、これをご覧ください。

満州北部の真冬は、零下30度、40度にもなります。その中の機材集めは本当に大変な作業でした。

国民党軍進撃に伴う移動

東北部に素早く進出したのは共産軍でしたが、その後でアメリカ製の近代兵器を装備した国民党軍が進出して



きました。装備に劣る共産軍は有名な遊撃戦術、敵来たらば退き、敵止まれば我止まる、敵退けば我攻撃す、で戦いました。最初共産軍は主要都市から農村部に

退きました。それに伴い、共産軍が林部隊を中心に設立した瀋陽航空隊も後退に次ぐ後退をしました。その間、1946年3月には通化市で航空学校を設立しましたが、この航空学校も、牡丹江、東安

(現在の蜜山市)、そして共産軍が優勢となると再び牡丹江に移動しました。酷寒の中の移動は大変なものでした。

敵対感情を乗り越えて

しかし中国側にとって一番大きな困難は、かつての侵略者を憎む感情を乗り越えることでした。日本側と党幹部はこの感情を早い時期に乗り越えましたが、全共産軍から集まる精鋭の学生にとっては簡単なことではありませんでした。彼らの多くは肉親や戦友を日本軍に殺されていたのですから。その上中国人は高粱粥を食べているのに、日本人は米の食事と、さらに酷寒の中、学生たちは廊下で寝なくてはならないのに、日本人は部屋の中。どうしても受け入れられずに部隊に戻っていた者もいました。

しかし多くは空軍を創るという大きな目標のためにこれを受け入れました。そのことには、共産軍空軍を創ることに命を懸けた日本人たちの努力が中国人の胸を打ったということもありました。東北航空学校では30名以上の日本人が命を落としました。その記念碑は今でも牡丹江の町にあります。

林弥一郎の命を救った黄乃一

1946年2月、東北航空学校が通化で設立される少し前、通化事件が起こりました。これは旧陸軍将校が国民党軍手



航空学校副政治委員
黄乃一

先と組んで蜂起しようとしたものでしたが、蜂起は失敗して何千人もの日本人が死にました。林部隊からこの事件に関与した者がでたのです。林は当時墜落事故で大腿骨を骨折し、やっと歩けるようになったばかりだったのですが、逮捕された部下が林の名前を挙げたために、林に銃殺刑の宣告がされたのです。この死刑宣告を命を懸けて止めたのが、航空学校副政治委員の黄乃一でした。黄乃一は林の技術力統率力がなければ空軍はできないと確信し、上からの林銃殺の命令を、自らの命を懸けて止めたのでした。

建国記念式典で観閲飛行

林たち東北航空学校はこれらの他の様々な困難に直面します。言葉の問題、学生の学力が低く、四則計算の教育から始めたこと、機材不足、航空燃料がなくなり、中国の強い酒、白酒（バイジウ）を航空燃料にしたこと、初等練習機がなく、いきなり九九式高等練習機で教育したこと、国民党軍機の襲撃をたびたび受けたこと、など枚挙にいとまがありません。しかし林たちは日中の力を合わせ、見事パイロット、整備員などの育成に成功したのでした。そして1949年10月1日の建国記念式典の時に、天安門広場の上空を観閲飛行したパイロットの多くは、林たちの教え子でした。さらに彼らの教え子は翌年勃発した朝鮮戦争で、アメリカ空軍と戦い多くの撃墜王を出したのでした。

帰国・再会

林たちは任務終了後帰国しますが、中共に協力したとして、就職も難しく生活に苦労します。林弥一郎も船の解体工をしていました。彼らの教え子は後に中国空軍司令官などになり、日中国交回復後、

林たちを中国に招待したのでした。

かつて最大の敵として憎しみ合った日本皇軍兵士と中国紅軍兵士が、一つの目標に命を懸けて協力し合った。この話は、あらゆる人間が理解しあえることを物語っています。

また、林部隊の者は幾多の困難を乗り越えて中国空軍を創るという大事業を成し遂げましたが、帰国後は貧しい生活を送るという挫折の人生でした。しかし彼らの命の輝きは永遠のものです。

(2016年1月14日・公開フォーラム)

講師略歴（つちや りゅうじ）

1951年静岡県裾野市生まれ。中央大学法学部卒業。

1975年防衛庁入庁、駐英国日本大使館参事官、防衛庁防衛局国際企画課長、人事教育局人事第一課長、大阪防衛施設局長、札幌防衛施設局長等。

2008年防衛庁退職。

著書『雪の曙―幕末に散った松前藩士たち』（2009年、柏艸舎）、訳書『国防の変容と軍隊の管理』（D・チューナー著、2003年、朝雲新聞社）など。



編・訳 上松玲子

飲み水は大丈夫

水利部は1月に「地下水動態月報」を公布し、昨年行った揚子江、黄河流域および東北地方の18の省にまたがる重点地区の浅層地下水の水質調査の結果を報告。それによると検査された地下水のうち8割は基準以下で、汚染の主な原因はアジ化化合物、一部の地域では重金属や有毒有機物に汚染されていたことが明らかにになった。水利部水資源司は昨日、このデータは飲料水の水源である深層地下水のもので

はないとコメントした。

調査ポイントは2013か所の井戸。飲用に適するのはI類からIII類だが、I類は0、418か所がIIまたはIIIで、全体の19・9%であった。農業用、工業用に適するIV類は691か所、飲用に適さないV類が994か所で、IVとVで80%を占める。

水利部は現在「全国水資源保護計画」を策定中で、都市部の飲用水源のうちの地下水水源地1817か所の85%が基準に適合していると関係者は述べた。

公衆環境研究センターの馬軍主任は、データは汚染の深刻な開発地域の浅層地下水のもので、心配する必要はないとしながらも、一部の地域では浅層水を飲んでいる場合もあり健康被害がゼロとはいえないと述べた。

『新京報』2016年4月12日

臓器移植の現状は

以下はニューヨークタイムズ電子版の報道だ。

3月31日中国赤十字会および中国臓器移植発展基金会が共同

で開いた臓器提供記念と推進運動のイベントでは壁一面に各地で建てられた臓器提供者記念碑の写真が飾られ、提供者への敬意を表した。

中国での自主的臓器提供は関連法律施行1年目はわずか34名だったと赤十字会の副会長。原因は遺体の完全を望む中国人の伝統的観念だ。2010年看護師を辞めて浙江省人体臓器提供センターの移植コーディネーターになった曹さんの目標は100家族に1家族の説得。遺族に「献体したら亡くなった家族は家に帰れなくなる」と言われたことが何度もある。

中国で臓器移植を必要とする年間30万人のニーズに応えるため、長期にわたり国際的な医学倫理に反するとして議論を分けた献体システムも変わろうとしている。自主的献体数も2015年には2766人、7785器官になった。関係機関の役人、コーディネーター、移植を待つ患者の家族、業者たちは常に献体の推進、献体への理解を叫ん

できた。SNSでも輪が広がっている。

このほど中国赤十字会は、医療機器メーカー山東威高集団からの寄付金800万人民币元を設立基金に、臓器提供と研究のための新しい基金「命のリレー博愛基金」の設立を発表した。

全国人民代表で無錫人民医院肺移植専門家、陳静瑜氏も、迅速な移植の実現のため政府の支持を求めている。現場の医師によれば、多くの遺族は臓器提供への理解が乏しく、突然の判断は難しい状態という。

国家衛生と計画委員の王培安副主任は、今後われわれは中国独自の臓器提供システムを断固として構築すると語った。

『参考消息ネット』2016年4月8日

精子バンクに潜む懸念

2人目の出産が解禁になり、精子バンクのニーズが高まっている。河南省の精子バンクでもこの2か月の需要の増加はドナー数を上回っている。

3月28日、記者は河南省人類

精子バンクの1階ロビーで多くの市民が2人目の子どもの出産相談しているのを見た。李玉山主任によれば、ここは全国21か所の精子バンクの中でも保存数が屈指のバンクで、毎年6千アンプルの利用があるが、今年は問合せ件数などから20%増の8千の利用が見込まれていて、それに合わせ提供の呼びかけを行っているものの、10%ほどの伸びしか見込まれていないそうだ。この状況に今までに3回ドナーになったことのある白さんは、利用が増えるほど将来の近親結婚や、プライバシーの侵害などが心配だと語った。

李主任によれば20歳から45歳で身長1m70cm以上、大学、高等専門学校以上の学歴で健康で遺伝性疾患の病歴がない男性がドナーになれるそうで、謝礼は5000元ほどに加え18000元の健康診断を無料で受けられる。臓器提供や、骨髄提供と同様に人道的意義であることを理解してほしいとうったえた。

李主任はまた、精子は最大5

名に提供され、誕生した子どもは近親結婚を避けるために結婚前に検査を受けることになっていること、被提供者はドナーの居住地域と別の場所選ばれるということを示した。

『中国新聞ネット』2016年3月29日

教師の不正根絶に

正規の授業中にはわざと定められた教育課程を消化せず、授業中教えなかったことを、補講で教えてお金をとる。有償の補講に参加しない生徒に嫌がらせをする。寧夏回族自治区教育庁ではこうした教師の不正行為対策として、昨年4月から小中学校で取り締まりと対策を講じてきた。今年も引き続き小中学校での有償補講の根絶の為に規則を強化する。

現職教師による有償補講の禁止はもちろん、学校や父兄が場所を貸すこと、現職教師が学外の教育機関や父兄個人や父兄会が行う有償の教育活動へ参与し関連情報を提供することを禁止する。違反が発覚した場合、教

師本人はもちろん、学校、機関も共に処罰されるほか、冒頭に述べたような悪質な事例については妥協や容認をしない。

教師の評価にもこの点を考慮、違反者の降格、不正に得た所得の返還、没収を行う。また、専門組織による査察、抜き打ち検査を行う。

『寧夏新聞ネット』2016年4月12日

ネットのデマ拡散防止

佛山市公安委員会と佛山市網信辦公室は、共同で「インターネットの流言飛語打倒」に関する記者会見を開いた。このところ、トラック爆発や伝染病などに関する流言飛語が微博や微信（中国版無料チャットアプリ）などのSNS上に頻繁に流れていることに対応するためだ。

佛山市公安局のネット対策チームの賀隊長によれば、2015年から今まで、佛山市公安機関は法律に基づき、流言飛語を流した罪で72人を摘発したという。昨年は52人、今年はすでに20人で、うち刑事拘留5人と2人、

行政拘留15人と16人、罰金と教育訓戒32人と12人。ほとんどがSNSの閉鎖空間を利用しているという。賀隊長は疑わしい情報が流れてきたら、発信者や情報源に注意して、真偽を考えてほしいと述べた。

先月流れた環状道路での貨物トラック炎上爆発のデマは、微信のモーメントに流れ、多くの市民の不安を煽った。

賀隊長によれば、特に拡散しやすいデマは子どもの誘拐にかかわること、ウイルスや伝染病にかかわることだそう。首謀者は他の地域から流れてきた同様のデマを佛山の地名に変え拡散している。大抵のニセ情報は数行の文字、1枚の写真だけで、日時も場所も発信源すらわからないものが多い。

佛山市党委員会宣伝部の張副部長は、市は微信のデマ取り締まりを重点項目ととらえており、デマが一定の拡散数を超えたら、萌芽状態のうちに刈り取るほか、技術的手段を用いると語った。

『南方日報』2016年4月13日

出かけて
みました

今、あのギリシヤを 150キロのウォーキング

雨宮 武（会員）

●健脚は十和田湖より起り

毎年7月の「十和田湖ウォーク」は38年の歴史ある全国的な大会。湖畔と山腹の起伏50kmを歩くのは厳しいが、全国から強者が集まることで知られています。

この大会に、10年前横浜の方



に誘われ初参加して以来、仲間ができ、風光を楽しんでいます。スタートは朝5時、ゴールは午後3時。10時間で漸く完歩です。この大会の主催者が八戸市にある「ウォーキングクラブMTC21」でした。

クラブの活動は活発で、中国

山東省から始まり、8次にわたりシルクロードの要路2600kmを踏破してきた実績もあり、こんなウォーキングもあるのかと大いに

魅力を感じ、神奈川に住む私ですが、早速入会しました。

医師から度々「歩く勧め」を受けたことも背中を押しました。

●欧州の宝、ローマ・アテネへ

かくて2007年には伊・ナポリ・ローマ200km（5日間）、2013年には伊・マテラーブリンディシュ160km（5日間）に参加し大いに満足しました。

そして今回（15年秋）はギリシャのパトラスーアテネ150kmの旅です。

●あの財政危機下のギリシヤ、老人パワーが力強く踏み歩く参加者は15名（内女性4名）。

最高齢81歳、元保健師さんも完全踏破。正に老人パワーの鑑。

この旅の幹事は地元八戸市のジャーナリストOB、広い視野の方で旅の計画は周到でした。

特に、結婚してアテネ在住50年の日本人夫人（大阪出身）とご主人を名ガイドとして依頼できたこと、土地勘のある専用バス運転手を確保できたこと、好天にも恵まれ、旅行費も割安、一同にとって楽しい18日間となりました。

今回延べ16日のうちウォーキングに5日間当て、その前後が世界遺産7か所の観光でした。

●青き地中海を左にして、アテネへ

ウォーキングは、6時起床、7時朝食、8時出発で4時頃ゴール。

コースは地中海沿いの南欧の景観美しい街道を進むが、うれしいことに交通量少なく、空あくまで青く、絶好の歩行日和続きでした。15人が一列となり、道路脇を整然と歩き、先頭と最



パルテノン神殿

後尾にリーダーとサブリーダーが付き、安全と体調を常に確認します。

トイレは1時間目安で、沿道のカフェを利用し、昼食もカフェでとり、ゴール後は、ゴール地点近くに選定されたホテルにバスで行き入浴、洗濯、そして夕食はできる限り土地のレストランを利用したのも良かったと思います。

ウォーキング中、覚えたての

ギリシャ語「カリメーラ」（おはよう）を行き交う人に発し、笑顔の交換をしました。女性には愛想が良く、男性も挨拶を返してくれました。心に響く和やかな一瞬です。

ゴールはアテネのパルテノン神殿を眺められる丘陵フィロポリスでした。たまたま自転車道に登ってきた地元青年ジョージと記念写真をとったのが印象に残ります。

遠望したこのパルテノン神殿には、その数日後に訪れました。が、この国の危機を忘れる程の大勢の内外観光客が押しかけていました。近くのパウロ由来の岩周辺も大変な混雑でした。

●ワインはエーゲ海から八戸へ
八戸の商社がワインを輸入するクレタ島のワイナリーが経営するレストランで、八戸からの見学客ということで、思い出深い歓迎を受けました。試飲もさる事ながら土蔵風の郷土色あふれるレストランで

の皿一杯の料理と女子中学生6人の民族色溢れる踊りの歓迎でした。感激一杯。

●ギリシャの庶民は強く生きて

クレタ島Ⅱミノア文明は、クノックス宮殿等々、古代文明が身近な世界でした。

ここも観光客が溢れ賑わい、現在のこのギリシャの経済財政危機は、アテネの「賢人」政治家たちの問題ではないか、の思いでした。

人口1100万、アテネに400万が集中、面積は日本の3分の1のギリシャですが、現実には高失業、マイナス成長で、新築ビルも少ない、低迷状態です。しかし通りかかる町や村で接した人々からは、未来に向かう明るい印象を感じるわけです。

西欧文明の起源Ⅱヘレニズム文明の現地訪問と、1日30kmウォーキングを取り合わせた創意



エピダヴロス遺跡の古代劇場

性あるこの旅は、私にとって本当に有意義な旅であったと思っています。

●感動の世界的遺産を記します
エピダヴロス遺跡の古代劇場、ミケーネ遺跡、ミストラ遺跡、オリンピア遺跡、アテネの考古学博物館、パルテノン神殿、イラクリオン博物館、クノックス宮殿、デルフィ遺跡、メテオラ遺跡

調べてみました

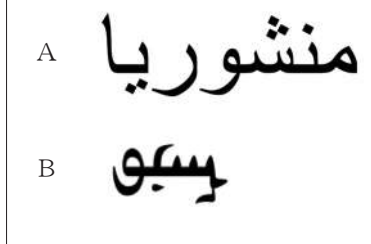
満洲とアラビア.. 縦書きのアラビア文字

牛木久雄（会員）

図1 満洲文字の「満洲」と「蒙古」



図2 アラビア文字の「満洲」



国際善隣協会と縁が深い満蒙地域（旧満洲と内蒙古）では、歴史上独自の文字を国語に用いていた。満洲文字は清朝の初代皇帝ヌルハチが1599年に蒙古文字をもとにして作らせた。多くの会員はお分かりだと思いが、蒙古文字は縦書きで、各文字を繋げて書く草書体の字形となっている（図1）。

筆者は、この文字群の独特の

書体が以前から気になっていたので、その起源を調べてみることにした。その結果、インターネットの検索等によって遠くアラビア発生の文字に繋がる背景がわかった。

まず、満洲文字の起源である蒙古文字であるが、13世紀にウイグル文字から派生したこの文字といのは、中国新疆ウイ

グル自治区で現在使用されている横書きのアラビア文字ではなく、8世紀にソグド文字から作られたといわれ、ソグド文字は、さらに古くアラム文字から発達したということである。アラム語は、海洋民族フェニキア人の言葉として有名であるが、アラム文字は現在イスラエルでヘブライ文字として使用されている。ソグド語では、縦書きも、横書きもあったといわれるが、ウイグル文字としては、横書き草書体を取り入れ、これを縦書きとして確立したとされる。

モンゴル元朝では、1269年、チベット僧パспаによるパспа文字を国字としたが、元朝の終焉によって、パспа文字は現在のモンゴル文字に席を譲った。しかし、モンゴル国では、1941年以来ロシア文字（キリル文字）が、国字として採用されている。ソビエト体制崩壊後、再度蒙古文字を国字とすることになったが、普及は思わしくない。中国の内モンゴル自治

区では現在も蒙古文字が使われている。一方、満洲文字は、すでに遺産化したに等しい。

蒙古文字と満洲文字が起源とするウイグル文字は、横書きのソグド文字を単に縦書きに並べたものではなく、いわば横書きで書き上げた文書を、左回りに90度回転させた具合になっている。現代アラビア語も含め、アラビア起源のソグド文字やアラム文字は、右から左に1行ずつ書かれ、筆書きでは下から上に払うことが多い。この書法が左に90度回転すると、筆は右から左に払われ、各行は左から右に並ぶことになる。満洲文字も蒙古文字も、筆を右から左に払いながら、1行を上から下に書き進め、各行を左から右に並べるから、左90度回転の理屈通りに書かれている。

図2には、「満洲」を現代アラビア文字（A）と横書きに戻した満洲文字（B）で示した。このようにして並べて見ると、お互いの近さがよくわかる。

陶々俳壇

兼題「蜩」「越」
席題「巢立鳥」

○風を呼び風を転がす雪柳（特善一）
岡和水

☆○佐保姫の駆けゆく山河目覚めけり
佐藤若杉

嶺越えて遠くにかすむ槍ヶ岳
〃

○原発やなお燃えむとす春の闇
〃

○花曇千鳥ヶ淵の白さかな
柳原仁哉

○春眠やひより越えの逆落し（特由紀子）
〃

○黄ミモザ住むその人は代替り
橋本紅杓

○枇杷新芽矢羽を空に向けて立ち
〃

○ひと山を越えて花見のふたりかな
長野宏太

草餅の香りや季節ひと巡り（特南山）
〃

○ひと山を越えて花見のふたりかな
大内善一

☆○しなざる越の城址や花の雨（特紅杓）
〃

○潮風の越天楽吹く彌生かな
鈴木南山

故郷や辛夷未だし新学期
〃

出窓越しの光まといて櫻草（特宏太）
戸部まもる

☆○急行の桜咲く駅とばしけり
〃

花の雨金太郎飴笑顔下手（特まもる）
馬場由紀子

吾れ越えてゆくよ子の吹く石鹼玉（特和水）
〃

☆最高点 ○由紀子選（特各人の特選）

選後評

馬場由紀子

木漏れ日を揺らし雲追う巢立鳥 和水

巢を飛び立つた鳥はまず木漏れ日をゆする。まだおぼつかない羽搏きであろうに、若い鳥たちは遙か遠い雲を恋うているかに元気に巢を出て大空へと、そして未来へと向かっていく。

巢立鳥数羽芽枝にこぼれ飛び 紅杓

鳥の巣を抱く樹木は、結果をなしているのかもしれない。枝が入り組んでいられるほど外敵から身を隠せる。そんな枝から巢立つたばかりの鳥たちは枝を離れようとしな。親離れはもうちょっと後かな。

大鷹の猛きそのまま巢立かな 南山

鷹の子はやはり鷹である。卵から孵ったばかりのころは何事も覚束ない様子の雛たちであったが巢立つころにはいっばしの大鷹気取り。あどけなさや獐犢さを潜ませている。

教堂の聖母像下に巢立鳥 まもる

巢立つたばかりの鳥が聖母像の前にひれ伏している。これから大空へと飛び立つとうとするその前に、聖母マリアの祝福を受けていきたい。自然な流れで、しかも厳かに擬人化成功している。

入学児色とりどりやランドセル 善一

これは平成の句である。昭和のころまでランドセルといえは赤と黒。それが今では様々な色がある。模様付きもあればバスケットカラーも。買ってあげるの、これを予想だにしない祖父父母である。

足で掻き潜り集めし瀬田蜩 仁哉

瀬田蜩とは琵琶湖で採れる蜩だぞうだ。一般的に大和蜩は汽水で育つが瀬田蜩は淡水で育つらしい。作者は琵琶湖の蜩採りの様子を面白く見られたところだろう。

子ら巢立ち老老介護蜩汁 若杉

老い二人の生活は穏やかに過ぎてきた。しかし、老いに病は付き物で、老老介護も仕方あるまい。そんな中でも、お互いを思いやり、少しでも滋養をつけようと蜩汁を召し上がっているのだろう。

蜩汁老いしふたりの朝餉かな 宏太

今回の句会では「蜩」と「老」の取り合わせが非常に多かった。老によつて失われつつある生気を取り戻すかのようにみんな蜩汁を喰っている。これからお元気で。

松尾芭蕉は隠密？

戸部 守

芭蕉は46歳の時に死を覚悟して奥州路を江戸の「深川」から岐阜の「大垣」まで600里、今でいえば2400kmを150日かけて踏破しています。特に白石く仙台は52kmあるのに朝6時に立って夕方に着いたというのだから驚きです。（奥の細道には岩沼に泊まったようになっていますが）

当時の平均寿命は50歳でしたから、随分思い切ったことをしたものだ、裏に何かあるのではないかと勘繰りたくなります。

彼の出身地は伊賀です。忍者ではなかったのかという疑問が湧いてきます。江戸幕府もまだ安定していない時期にひそかに幕府の命を受けて、特に仙台の伊達藩と金沢の加賀藩の様子を探りに行ったという考えもできます。また僧侶のような服装は怪しまれないためにはないでしょうか。

わたしはむしろ同行して「随行日記」を書き留めていた河合曾良の方が隠密としての可能性が大きいと思います。彼はこの旅行の会計をとり仕切り、そのうえに病氣と称して山中温泉で芭蕉と別れます。後に幕府巡見使随員にもなっています。

これらはすべて私の憶測です。でも俳聖とまで称された松尾芭蕉についてこのような当て推量をするのも楽しいことだと思います。

中協会 通信

理事会のお知らせ

3月17日の理事会において、第5回定時社員総会の日程をきめました。5月26日(木) 14時30分、協会5階会議室にて開催します。ぜひ、ご参加ください。大会資料の発送は5月2日を予定しております。なお、総会終了後懇親会を予定しておりますのでご予定ください。会費はございません。

会員だより

◎新入会員

〈正会員〉

古閑哲氏
員要鋒氏

善隣原稿の募集

読者の皆様には原稿執筆に協力いただいておりますが、「善隣」誌を魅力ある誌面にするため、イラストやカットを掲載し

たいと思います。編集担当には絵心がなくその任にありません。ぜひ皆様のご協力をお願いしたいと思います。ふるってご応募いただくようお願いします。

同好会だより

〈謡曲会〉

5月24日例会 実施予定曲目

曲目	役割	地頭
小袖曾我	シテ土屋 ツレ(五郎) 鶴川 ツレ(母) 神保	堀野
井筒	シテ鶴川 ワキ神保	堀野
阿漕	シテ堀野 ワキ柳原	柳原

〈お詫びと訂正〉

先月(4月号)の新入会員紹介でお名前に誤りがありました。改めて掲載させていただきます。

〈正会員〉

鞍掛勝雄氏

編集後記

▽今月は巻頭をモンゴル国大使館のサラントグス氏の論文を掲載しました。そして表紙もモン

ゴル風景では一般的な大草原を排し、ザワハン県の湖にしました。モンゴル国は古い国ですが、現在の体制になったのは1992年の若い国です。我が国とは因縁浅からぬ所があり、古くは13世紀の元寇の戦いから1930年代の独立戦争での関わりと長い歴史があります。しかし、現在は何んといっても大相撲でのモンゴル国出身者の活躍があるように、両国は友好関係にあります。モンゴル国は地図で見ますと、ロシアと中国に囲まれた内陸の国家であり、面積は156万4千㎡で日本の約4倍、人口は約300万人で1/40ほどで、国土は広いが人口は多くありません。

▽産業はまだ発展途上ですが、広大な国土に恵まれ、地下資源は豊富に存在します。石炭は良質な無煙炭を産出し、他に銅やウラン、レアメタルなどの鉱物資源に恵まれております。しかし、なんともウィークなのは、海に面しない内陸国のため隣接するロシア、中国との貿易が多

くなります。これからの目標は国内製造業の発展が重要で、資源ビジネスから脱却するのが目標です。我が国に技術援助が求められています。

▽ところで、協会は一昨年6月にモンゴル国訪問団を派遣し、ウランバートル市役所や学校への植林、毛織物工場の訪問など大いに民間善隣外交の責を果たしました。また、今年も訪問団を派遣すべく検討中です。これからも善隣国としての協力拡大に努力しているところです。

▽校了間際に熊本での大地震の報が飛び込んできました。本欄でも我が国が複数のプレートの上に乗っている不安定な地盤であることを報告しましたが、今回は活断層ということで、いかに日本列島がびび割れているかがわかります。余震の続く中被災地の方々は大変ですが、一日も早い復興をお祈りします。ところで、九州には稼働している原発もありますが、支障はなかったのでしょうか。

(福島靖男)

2016年5月の行事予定

- | | | |
|--------|---|-------|
| 11日（水） | 俳句会
兼題「涼し、昔」及び当季雑詠 | 13：00 |
| 12日（木） | ○公開フォーラム
「日中知識交流の重要性―日中経済知識交流会が創り出したもの」（仮題）
凌星光氏（日中科学技術文化センター理事長） | 14：00 |
| 13日（金） | 一石会囲碁例会 | 11：00 |
| 17日（火） | 謡曲会（松木先生稽古日） | 14：00 |
| 19日（木） | ◎公開アジア研究懇話会
「在中日系企業の最新動向―環境変化の中の日系企業」（仮題）
陳言氏（日本企業（中国）研究院理事長） | 18：30 |
| 23日（月） | 書道同好会 | 14：00 |
| 24日（火） | 謡曲会例会 | 13：30 |
| 26日（木） | 第5回定時社員総会 | 14：30 |
| 31日（火） | 謡曲会（松木先生稽古日） | 14：00 |

5月の会議予定

<u>2日</u> （月）国際交流委員会 14：00 <u>9日</u> （月）環境委員会 14：00 9日（月）引揚70周年記念事業 実行委員会 14：00 <u>12日</u> （木）講演委員会 15：30	<u>12日</u> （木）広報委員会 15：30 23日（月）引揚70周年記念事業 実行委員会 14：00 25日（水）東北委員会 14：00 26日（木）理事会(第2回) <u>13：30</u>
---	--

※会員外一般聴講者の参加費は、◎印：1000円、○印：500円、無印：無料です。

※下線は通常日程に変更あり

外部改修工事

外壁塗装・シーリング・
外壁補修・屋上防水

（予算の厳しい方のみ、ご相談
ください。）



株式会社 川崎外装管理 担当：塩塚 090-1805-3473

〒179-0074 東京都練馬区春日町1-11-18 裕喜ビル2階

TEL: 03-5933-9620 FAX: 03-5933-9621

E-mail: kawasakigaisou@red.zero.jp URL: <http://www.gaiso.jp>

INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)

<http://www.kokusaizenrin.com>